



さとやま 2026年 春号 (通巻174号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会  
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内  
tel 029-874-6600  
<http://ushiku-satoyama.org>  
■編集 木谷昌史



# さとやま

～春号～  
No.174

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (ニリンソウの群落)
2. お知らせ
- 3-4. プロジェクト活動報告
- 4-5. 山野の動植物
6. 裏表紙 (ヒメウラナミジャノメとシマヘビ)

## 事務局からのお知らせ

### 第22回通常総会議案書送付のお知らせ

事務局より第22回通常総会の議案書を郵送させていただきました。今年度は5月20日(水)8時45分から牛久自然観察の森ネイチャーセンターレクチャー室での開催を予定しております。今年度も同封の出欠確認はがき内に「書面表決」のチェック欄を設けてございますのでそちらも適宜ご活用下さい。大変お手数をおかけいたしますが総会資料をご確認の上、同封いたしました返信ハガキに総会への出欠を記載いただき返送していただくようお願いいたします。

### 助成金をいただきました。

令和7年度、公益信託「エコー茨城」環境保全基金様から緑豊かな自然環境を守り、快適で潤いのある生活環境の創造を図る基金の取り組みとして、22万円の助成金をいただきました。いただいた助成金は林床保全作業で使用する充電式刈払機(マキタ製 MUR015GZ)やバッテリー(マキタ製 BL-4040)、鎌などに使用させていただきます。

### 牛久自然観察の森・結束町みどりの保全区「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森及び隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。2~4月の活動では、引き続き雑木林の林床の下草刈りと落ち葉かきを行いました。昨年モウソウチクを高さ1mで切った場所からは4月に入っても今のところ竹が生えて来ておらず、勢いを弱めることが出来ているようです。

5~6月は下記の通り4回の実施を予定しております。雑木林、杉林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。



作業の準備をする様子



萌芽するコナラを確認する様子

活動日：5月14日(木)、28日(木)、6月11日(木)、25日(木)

時間：9時30分~12時

集合場所：ネイチャーセンター横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。



ジュウニヒトエ



ヤマユリ



ベニシダ



ハナイカダ



カントウタンポポ



ヤブキリ



ムラサキサギゴケ



サギゴケ



オドリコソウ

## 牛久自然観察の森指定管理者 観察舎前バタフライガーデン管理作業報告

丸山 淳子

観察舎前に広がっている畑は「バタフライガーデン」と称して、蝶たちが産卵し、幼虫が育ち、成虫になる過程を観察できるような植物を選んで育てています。主にジャコウアゲハの食草ウマノズグサ、モンシロチョウの食草キャベツや菜の花、キアゲハの食草パセリやニンジンなどを選び植えて管理しています。

今年の春はキャベツの苗植えとウマノズグサのつるをうまく絡まれるよう、つる棚を作り直しました。つる棚は観察舎のまわりで材料である篠竹を切り、葉を落とし、長さを調整して紐で結んで固定して作っていました。キャベツの苗を植える際はカブトムシの幼虫を飼育しているときに出土したフンを肥料として畑に混ぜ込みました。

4月に入り気温の上昇とともにウマノズグサの新芽も伸び始めました。これからぐんぐんと伸びてたくさん葉を茂らせていくことでしょう。重さに耐えられるよう作り直したので安心です。毎年、ジャコウアゲハもたくさん産卵して幼虫

が必ず観察できる場所になっています。もちろんオレンジ色を帯びたサナギもたくさん観察できます。近年はウマノズグサの開花も見られるようになりました。蝶の写真撮影で楽しんでいる来園者の方も見受けられます。蝶以外にもキャベツ畑ではニホントカゲが産卵していて、親子で現れる様子やニホンカナヘビが畑にくる虫を狙って現れるところを観察できます。

これからも来園者の方に親んでもらえるバタフライガーデンを管理していきたいと思います。



畑の様子

## 山野の動植物



ナルコユリ



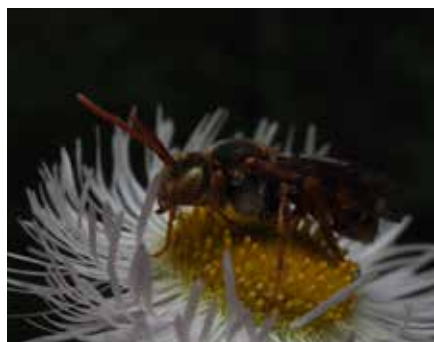
ツリガネニンジン



コジャノメ



ヤブマオ



ダイミョウキマダラハナバチ



ヒメウラナミジャノメ

# プロジェクトからの報告

雑木林応援隊

## 雑木林応援隊 1月から3月の活動報告

橋本久儀

2026年1月4日、雑木林応援隊は今年も安全に留意し、里山保全に貢献すべく活動を開始した。

### (1) 1月の活動

4日、今年も安全に活動が行えることを祈念し、昨年末作成した牛蒡注連（ゴボウじめ）に向かって祝詞を上げ、第1回目の活動が始まった。この日は新年第1回目の炭焼きを行った。



写真1 牛蒡締め

さらに小屋の修理、周辺の清掃、道具の点検を行った。

第2回目は、梅林の除草刈りを自走式草刈り機3台、刈払機3台で行い、さらに新規に購入した刈り払い機のお披露目を行った。また、梅林では梅の花が咲き初めており、春の足音が間近に感じられた。



写真2 新しい刈払機



写真3 梅の花

### (2) 2月の活動

第1回目は、ムジナの里で竹林（孟宗竹）の間伐を行った。間伐した竹の主要部分は炭焼き用として使うため約2.4mに切断し、切り落とした枝、先端の端材はシュレダーで細かく切断し、竹林に戻した。間伐後はすっきりした様子となっている。



写真4 枝・端材の処理



間伐後の竹林

間伐の効果により、ムジナの里の竹林では4月に多数の筍が収穫できる。第2回目は炭焼き小屋周辺の清掃、草取りを行った。畑ではフキノトウが出ており多数収穫した。帰って天ぷらにして、少し苦みのある春の味を楽しんだ。



写真5 フキノトウ

### (3) 3月の活動

第1回目はムジナの里で収穫した約2.4mの竹材を次回の炭焼き用に約40cmに切断し、束ねて保管した。



写真6 切断しまとめた炭焼き用材料

第2回目の活動は炭焼き作業。まず、年初めに作成した炭材を炭窯から取り出したが、炭材には少し生焼けの部分があった。原因を解析・対策し、新たに用意した竹材を炭窯に投入し、火入れを行った。竹材は約1日半で焼き上がる。

出来た竹炭は各自持ち帰り、吸湿材、室内飾り、土壌改良材などとして使用している。個人的には、着火しやすく燃焼時間が約1時間と短い、焼き芋を作るのに適していると感じる。余分な竹炭は来園された方に無料で差し上げている。

また、日頃使っている機材のメンテナンスも行った。写真はチェーンソーのチェーンのたるみを調整しているところである。



写真7 チェーンソーのメンテナンス